

2025 年度事業報告書

I 事業の実施概要

(1) 助成事業	2
(2) 表彰事業～放送文化基金賞の実施と他の賞への参加～	3
(3) 制作者フォーラムの開催	5
(4) 新規事業の企画展開	6
(5) 定期刊行物の刊行	6
(6) ホームページ等による広報	7
(7) 資産運用検討委員会の開催	8

II 処務の概要

(1) 役員、評議員等に関する事項	8
(2) 理事会および評議員会に関する事項	11

III 付属明細書(資料 1～4)

2025 年度事業報告書

I 事業の実施概要

2025 年度の世界経済は、緩やかな回復基調を示しつつあるものの、ウクライナや中東などでの地政学的リスクや資源価格の変動により不確実性の高い状況が続きました。我が国においては、賃上げの進展等により、景気は持ち直しの動きが見られた一方、物価上昇や為替変動が国民生活に影響を及ぼしました。

このような環境の下、メディアにおいては正確かつ迅速な情報提供や多様なニーズに応える公共的役割の重要性が一層高まっており、放送文化基金は放送を中心としたメディア文化の発展と向上に貢献すべく、助成、表彰、支援の事業の着実な遂行と充実に努めました。

助成事業においては、2024年度より人文社会・文化部門からイベント関連を独立させ、技術開発、人文社会、イベント事業の3分野に助成対象を再編し、よりきめ細かな対応を図るとともに、昨年度に引続き学術誌に広告を掲載し、周知活動の強化に取り組みました。なお、技術開発部門の助成金の一部に解散した東京ケーブルビジョンから受入れた寄付金を充当しました。

表彰事業においては、放送文化基金賞贈呈式のイベントとしての質的充実を図りつつ、視聴者に感銘を与え、放送文化の発展と向上に寄与した優れた番組やコンテンツおよび個人・グループの表彰を実施しました。また、本年も昨年に引き続き、放送の将来を見据え、放送の新たな可能性を切り拓くような番組や取り組みを対象として、特別賞を実施しました。

制作者支援活動事業においては、「北海道・東北地区」、「愛知・岐阜・三重地区」、「九州・沖縄地区」の3地区で現地の実行委員会との共催による制作者フォーラムを開催し、系列や地域の枠を越えた交流の場を若手制作者等に提供し、フォーラムが一層充実したものとなるよう支援を行いました。

上記の主要三事業に加えて、新規事業展開を企画し、日本メディア学会と連携したシンポジウムの共催や基金賞受賞番組の制作者を招いて「番組を見る会・語る会」を開催するなどの活動を展開しました。

(1)助成事業

ア 2025年度助成

助成要項に基づき公募を行った結果、技術開発、人文社会、イベント事業の3分野で合計138件の申請があり、助成審査委員会の審査と理事会の審議を経て、最終的に49件、8,715万円の助成を決定した。

(単位 万円)

区 分	申 請		採 択	
	件 数	金 額	件 数	金 額
技 術 開 発	33	12,646	10	3,471
人 文 社 会	52	7,441	17	1,474
イベント事業	53	15,502	22	3,770
合 計	138	35,589	49	8,715

(助成一覧 資料 1)

なお、金融緩和政策の長期化により資産運用収入が減少する状況下で、助成事業を安定的に継続していくため 2014 年度から 5 年間にわたり積み立てた助成費用準備資金から 2,000 万円、また解散した財団法人東京ケーブルビジョンより 2017 年に受け入れた寄付金から 1,000 万円をそれぞれ取崩して、助成金の一部に充当している。

助成金贈呈式は2026年3月4日に開催され、目録贈呈と懇親会を実施した。また、贈呈式に先立ち、技術開発部門では奈良先端科学技術大学院大学 准教授の澤邊太志氏による『自動走行時の視覚と前庭感覚制御による快適なエンタメ体験の実現』、人文社会部門では東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 フェローの吉田優貴氏による『ケニアの教会におけるデジタル・テクノロジーの活用』、イベント事業部門では「地方の映像

クリエイター育成実行委員会」副委員長 小山田文泰氏による『放送の未来を担う人材育成・交流事業』の3件について成果報告会を開催した。

イ 2023年度助成事業の実施報告

2025年10月～11月に開催したそれぞれの審査委員会で、2023年度に助成した技術開発12件、人文社会・文化21件の実施報告(2025年6月末締切)について1件ずつ内容の評価を行った。

(2)表彰事業～放送文化基金賞の実施と他の賞への参加～

ア 第51回放送文化基金賞

2024年度中に放送・配信された優れた番組・コンテンツとその期間を中心に顕著な業績をあげた個人・グループを対象に、2025年4月～5月に開かれた各部門の専門委員会、審査委員会を経たのち、理事会で計31件を決定した。

領 域	応募・推薦数	表彰数	備 考
ドキュメンタリー	81	5	最優秀賞1、優秀賞1、奨励賞3
ドラマ	59	4	最優秀賞1、優秀賞1、奨励賞2
エンターテインメント	72	4	最優秀賞1、優秀賞1、奨励賞2
ラジオ	40	3	最優秀賞1、優秀賞1、奨励賞1
個別分野	—	6	番組・コンテンツの受賞作品から選定
放送文化	19	4	—
放送技術	11	4	
特別賞	—	1	—
合 計	282	31	

(「放送文化基金賞」受賞一覧 資料 2)

賞金は、最優秀賞 100 万円、優秀賞 70 万円、奨励賞 50 万円、個人賞は各 30 万円。また放送文化・放送技術部門の賞金は各 30 万円、特別賞は 50 万円。

最優秀賞を受賞した番組・コンテンツは、ドキュメンタリー部門が『NHKスペシャル「調査報道・新世紀 File3 子どもを狙う盗撮・児童ポルノの闇」』（NHK）、ドラマ部門が『連続テレビ小説「虎に翼」』（NHK）、エンターテインメント部門が『題名のない音楽会「山田和樹が育む未来オーケストラの音楽会」』（テレビ朝日）、ラジオ部門が『CBCラジオ特集「20 年目」』（CBCラジオ）である。

このほか放送文化が4件、放送技術が4件、特別賞が1件である。放送文化基金賞の贈呈式は、2025年7月9日にオークラ東京で開催した。

イ 他の賞への参加

ABU(アジア太平洋放送連合)番組コンクールおよび「創作ドラマ大賞」に参加した。

ABU番組コンクールの授賞式は、2025年9月14日にモンゴルのウランバートルで行われ、スポンサーの一員として賞金 US\$4,000 を贈呈した。

日本放送作家協会とNHKが主催する「創作ドラマ大賞」について、第50回「創作テレビドラマ大賞」の贈賞式は2025年11月6日に行われ、大賞の『まちとあかり』（今野美怜氏）に賞金 50 万円を贈呈した。また、第54回「創作ラジオドラマ大賞」の贈賞式は2026年3月24日に行われ、大賞の『キラキラ。』（松平節氏）に賞金 50 万円を贈呈した。

(他の賞への参加結果 資料 3)

(3) 制作者フォーラムの開催

NHK、民放、制作プロダクション等、組織の枠を越えた制作者同士の自由な意見交換や交流の場を設けることを目的に開催している。

2025年度は、「北海道・東北地区」、「愛知・岐阜・三重地区」、「九州・沖縄地区」の3地区で開催され、現地実行委員会との共催によるミニ番組コンテストと審査員によるトークセッションが行われた。

さらに、2026年2月14日(土)に東京で全国制作者フォーラム2026を開催し、上記3地区のミニ番組コンテストで入賞した作品の上映とゲスト制作者との意見交換、トークセッション『リブート！テレビデモクラシー ～参加したくなるテレビの作り方～』を実施した。

○北日本制作者フォーラム in ふくしま（北海道・東北地区）

<北海道・東北の全民放と NHK 計40局>

日 時 2025年11月14日（金）

会 場 郡山市立中央公民館／郡山市

参加者 約 45人

○愛知・岐阜・三重制作者フォーラム in なごや（愛知・岐阜・三重地区）

<愛知・岐阜・三重の全民放とNHK 計 10 局>

日 時 2025年12月11日（木）

会 場 愛知芸術文化センター／名古屋市

参加者 約 80 人

○九州放送映像祭&制作者フォーラム（九州・沖縄地区）

<九州・沖縄の全民放と NHK 計35局>

日 時 2025年11月8日（土）

会 場 NHK 福岡放送局 よかビジョンホール／福岡市

参加者 約70 人

(4)新規事業展開の企画展開

○日本メディア学会放送研究部会との連携企画「いまメディアを考える」
連続シンポジウム」への協賛

・第1回「大阪から、改めてフジテレビ問題を考える」

日 時 2025年6月6日（金） 19:00 ～ 20:50

会 場 上智大学大阪サテライトキャンパス

<プログラム>

記者会見での対応、スポンサー離れ、第三者委員会による調査報告、経営陣交代など、ガバナンスは機能していたのか、報道の独立性は守られていたのかなど、フジテレビをめぐる問題について、メディア研究者と元報道記者が集い、現場と理論の両面から、討論を行った。

報告者：音 好宏（上智大学 教授）

討論者：長井 展光（同志社女子大学）

北林 靖彦（ジャーナリスト・元毎日新聞文化部記者）

・第2回 日本メディア学会放送研究部会企画ワークショップ

「SNS 時代の選挙とテレビ報道」

日 時 2025年6月8日（日） 13:00 ～ 15:00

会 場 立命館大学衣笠キャンパス

<プログラム>

東京都知事選、衆議院総選挙、兵庫県知事選、「選挙の年」と言われた2024年は SNS などのネットメディアと放送、新聞などの既存メディアの在りよう・役割が問われた年でもあった。選挙報道の現場で問題に直面した制作者と研究者が問題提起と議論を通じてあるべき選挙報道の姿を探求した。

司会者 ： 音 好宏（上智大学 教授）

問題提起： 曹琴袖（TBS）

討論者 ： 渡邊久哲（上智大学 教授）

○「国境デスロード」(AbemaTV)を見る会・語る会

日 時 2025年11月24日（月・祝） 14:00 ～ 17:10

会 場 渋谷ソラスト コンファレンス

<プログラム>

第51回放送文化基金賞エンターテインメント部門で奨励賞を受賞した『国境デスロード トランプの壁突破デスロード 前編・後編』(AbemaTV)を視聴し、企画・総合演出の大前プリョルジョ健太氏を迎え制作の舞台裏などについて語る会を実施した。

ゲスト：大前プリョルジョ健太 氏(映像ディレクター)

コーディネーター：丹羽美之 氏(エンタ部門審査委員長／東京大学教授)

(5)ホームページ等による広報

2025 年 5 月に放送文化基金のホームページをリニューアルした。
(<https://www.hbf.or.jp/>)

コンテンツマネジメントシステムの刷新を行い、ネット時代によりタイムリーな情報発信が可能となるよう、2015年以来、10年ぶりに全面改修を実施した。

リニューアルしたホームページでは、「HBF MAGAZINE」として放送文化を取り巻く様々な情報を届ける情報サイトを設け、「X」への投稿やメールマガジンの配信なども利用し、プレゼンス向上に向けた取り組みを強化した。



(6)資産運用検討委員会の開催

ア 目的等

資産運用の専門性をより向上させるための諮問的機関として設置しており、2025年9月29日と2025年11月27日に開催した。

イ 主なテーマ

- ・国内外の経済政策や金利・為替等の見通し
- ・債券市場や保有債券の分析、資産運用方針の検討等

ウ 構成委員

石村 百梨（野村證券(株) ポートフォリオ・コンサルティング 部 ポートフォリオ課長代理）

松原 克美（放送文化基金 会計顧問・公認会計士）

本橋 春紀（放送文化基金 監事・日本民間放送連盟）

松村 勝康（放送文化基金 監事・日本放送協会経営企画局長）

（幹事）

梅岡 宏（放送文化基金 専務理事）

II 処務の概要

(1)役員、評議員等に関する事項

ア 役員の選任等

- （i）第37回評議員会（2025年6月23日）において、全役員の任期が満了となることを受け、定款第28条に基づき、次のとおり選任した。

（理事）

濱田 純一 氏（東京大学名誉教授）

大石 芳野 氏（写真家、東京工芸大学客員教授）

安藤 裕康 氏（国際交流基金顧問）

小川 賀代 氏（日本女子大学教授）

田中 早苗 氏（弁護士）

梅岡 宏 氏（元日本放送協会札幌放送局長）

(監事)

本橋 春紀 氏 (日本民間放送連盟 常務理事)

松村 勝康 氏 (日本放送協会 経営企画局長)

(任期は2025年6月23日から2027年6月の定時評議員会まで)

なお、清水 孝雄 監事、前田 浩志 監事は 2025年 6 月 23 日付で退任した。

(ii) 理事長及び専務理事の選定

第37回評議員会で理事 6 名が選任されたのを受け、第82回理事会(2025年6月23日)を開催して、定款第 28 条第 2 項に基づき、濱田 純一 理事が理事長に、梅岡 宏 理事が専務理事に選定された。

(iii) 理事長、専務理事の報酬について

第37回評議員会において、新しい理事長、専務理事の報酬について現行と同額とすることを定款第 19 条第 2 項(2)に基づき決議した。

イ 評議員の選任

第38回評議員会(2025年12月10日)において、田淵 正朗 氏が新たに評議員に就任した。

田淵 正朗 氏 (日本放送協会 経営委員会委員・監査委員)

(任期は2025年12月10日から2027年 6 月の定時評議員会)

ウ 評議員の退任

大草 透 評議員は2025年6月19日付で退任した。

稲葉 延雄 評議員は2026年1月24日付で退任した。

エ 審査委員の委嘱等

(i) 審査委員の委嘱

第86回理事会(2026年2月5日)において、審査委員を次のとおり

委嘱した。

・助成(技術開発)審査委員会

委員長 都竹愛一郎 氏（名城大学名誉教授）
荒川 薫 氏（明治大学教授）
伊丹 誠 氏（東京理科大学教授）
奥田 晋 氏（TBSテレビ常務取締役）
神田 菊文 氏（日本放送協会放送技術研究所所長）

・助成(人文社会)審査委員会

委員長 黒崎 政男 氏（東京女子大学名誉教授）
佐藤 卓己 氏（上智大学教授）
竹中 千春 氏（国際政治学者）
山口いつ子 氏（東京大学大学院教授）

・助成(イベント事業)審査委員会

委員長 伊藤 守 氏（早稲田大学名誉教授）
佐藤友美子 氏（追手門学院理事）
田中 良憲 氏（日本放送協会メディア総局展開センター長）
西野 輝彦 氏（日本民間放送連盟特別主幹）

・放送文化基金賞審査委員会

委員長 桐野 夏生 氏（作家）
河合祥一郎 氏（東京大学大学院教授）
小島ゆかり 氏（歌人）
西野 輝彦 氏（日本民間放送連盟特別主幹）
丹羽 美之 氏（東京大学大学院教授）
本間 康文 氏（元 TBS テレビメディア戦略室担当局長）
山名 啓雄 氏（日本放送協会専務理事）
山根 基世 氏（アナウンサー）

（任期 2026 年 4 月 1 日から 2028 年 3 月 31 日まで）

(2)理事会および評議員会に関する事項

ア 理事会

開催年月日	主 な 議 案
2025.6.5 (第81回)	・ 任期满了にともなう役員候補者の推薦について ・ 理事長・専務理事の報酬について ・ 2024年度事業報告および決算について ・ 第51回「放送文化基金賞」表彰対象について ・ 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況について
2025.6.23 (第82回)	・ 理事長及び専務理事の選定について
2025.8.1 (第83回)	・ 2025年度助成(イベント事業・前期)の実施について ・ 評議員の退任について ・ 専門委員会(助成・技術開発)委員の委嘱について ・ 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況について
2025.10.9 (第84回)	・ 第38回評議員会の開催について ・ 2025年度事業活動収支 施行見込について ・ 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況について
2025.12.10 (第85回)	・ 評議員候補者の推薦について ・ 2026年度予算編成の考え方について ・ 2026年度資産運用方針について ・ 第52回放送文化基金賞「表彰実施細則」について ・ 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況について

2026.2.5 (第86回)	・ 第39回評議員会の開催について ・ 審査委員会委員の委嘱について ・ 2026年度「助成要項」について ・ 2025年度助成の実施について ・ 助成費用準備資金Ⅱ規程の改定について ・ 2026年度事業計画および収支予算の編成について ・ 評議員の退任について ・ 放送文化基金賞 審査委員会専門委員の委嘱について ・ 2025年度事業活動収支決算見込みについて ・ 2026年度業務予定について
----------------------------	---

イ 評議員会

開催年月日	主 な 議 事
2025.6.23 (第37回)	・ 2024年度事業報告および決算について ・ 2025年度事業計画および収支予算について ・ 第51回「放送文化基金賞」選考結果について ・ 事業の執行状況について ・ 任期満了にともなう役員の選任について ・ 理事長および専務理事の報酬について
2025.12.10 (第38回)	・ 評議員の選任について ・ 評議員の退任について ・ 2025年度収支見通しおよび2026年度予算編成方針 ・ 事業の執行状況について